

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉東高等学校

重点項目	グローバル人材育成重点校	提出日	令和5年4月13日
------	--------------	-----	-----------

1 学校目標	
世界市民として、豊かな文化の創造、民主的な社会及び平和的な国際社会の形成に進んで貢献することのできる、知・情・意を兼ね備えた、自主的・自律的で、生きる力に満ちた生徒を育成する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルをバランスよく活用して知識や技術を身につけ、それらを日常生活や他教科と横断的に結びつけながら探究的に学ぶことにより、グローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を図る。 ・社会奉仕と環境問題に取り組み、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、生徒が主体的に地域貢献・国際貢献が行えるような指導を行う。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア教育 DP 認定（10月中予定） ・各教科における複数名教員のワークショップ受講 ・IBの手法を取り入れた授業計画と実施、公開授業週間の設定（年間2回） ・中学校及び地域への啓発（IBコースへの関心をもつ中学生 30名以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動ではすべての探究グループが Google Classroom をプラットフォームにしながら探究活動を行った。「倉吉の方言」や「三朝ラドン温泉」などの地域資源に着目し、それらをテーマに扱った探究成果を全国や海外の交流校に発信することでローカルとグローバルを結び付けた活動を行うことができた。 <p><数値結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月23日、国際バカロレア機構より山陰初のIBワールドスクールの認定を受けることができた。 ・Head of School、Language A(Japanese)、History、TOK、Music、Language B(English)、Mathematics、Geography のワークショップを受講した。 ・公民の授業で TOK を取り入れた実践、科学と人間生活では内部評価を行うなど1年のクラスを中心に年間を通じて公開授業を行った。 ・11月10日に本校で中学校教員対象の説明会を実施した。11月20日には倉吉交流プラザで中学生保護者対象に説明会を行い、中学生及び保護者77名が参加した。合格者の調査では63名がIBコースに関心をもっていた。
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>なし</p> <p>【独自事業】</p> <p>■探究活動推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果発表会 <p>韓国安養高校、シンガポールセントジョセフ高校、台湾桃園高校の生徒と Zoom 等を通して英語で探究活動を6月から12月にかけて月1回程度の割合で共同研究を行った。コロナ感染対策のため、当初予定していた交流校生徒と担当教員を成果発表会に招くことはできなかったが、海外交流校高校生とともにスライド発表形式で成果発表を2月1日（水）に本校で実施した。</p>	

■Glocally 体験事業

・コロナ感染防止対策のため、台湾研修を断念し、10月18日(火)～20日(木)に鳥取県内での研修旅行を実施した。生徒が地元の良さを発見したり、再認識したりする機会となった。また、研修旅行中に留学生とともに途上国の課題解決について考え英語で発表する機会をもち、英語力の向上を図った。

・倉東 English Projects

3月22日に鳥取大学 Michael Mulle 助教を招聘し、英語講演会を実施した。生徒たちにとって、日本と鳥取の良さについて考えるきっかけになり、多くの人と触れ合うことの大切さを学ぶ契機となった。また、講演会の前に1年生スピーチコンテストを実施した。

【国際バカロレア教育導入事業】 … 高等学校課一般会計予算

世界に通用する論理的思考力や表現力、コミュニケーション能力などが身に付けられることで国内外から高い評価を得ている国際バカロレア (IB) 教育を実施するため、以下の事業を実施し、9月23日に IB ワールドスクールの認定を受けるとともに、IBの認知度向上と機運醸成を図った。

・校内研修会の実施 (TOK 研修: 講師 他校 IB 教員)

・先進的な IB 認定校視察及び短期研修として、東京学芸大学附属高等学校、広島叡智高等学校、高知国際高等学校、虎姫高等学校、セントジョゼフ (シンガポール)、Rome Michelle Secondary College (アデレード) へ視察に行った。いずれも生徒が主体的に学習する設計がなされ、TOK 等のコア科目やインターナショナルマインドとのつながり、概念理解を重視した授業展開がなされていた。また、自己のキャリアを自己決定していく進路支援体制や学校運営は生徒のみならず教職員が生涯学習者であるという IB の考え方が実現されていた。先進校視察で学んだことを全体共有し、授業改革や学校運営・経営に活かしていくことが必要である。

・海外視察では、IB グローバルカンファレンス (アデレード) への参加し、IB ワールドスクールとして、①インクルーシブ教育とウェルビーイング、②教育の技術革新、③生涯学習のさらなる促進の3点を挑戦していくことを学んだ。我が国では、平均的な教育水準は高いものの、こどもたちの自己肯定感と自己決定力が低いため、それらを高め、多様な文化の理解と尊重と画一的な学習からの脱却をしていくことが必要であると痛切に感じた。

・管理職、IB 教員がワークショップ 14 講座に参加し、Head of School、Language A (Japanese)、History、TOK、Music、Language B (English)、Mathematics、Geography のワークショップを受講した。IB のワークショップで学んだことは、学習指導要領との親和性が高いだけでなく、次 (高校では 2023 年度実施) の学習指導要領を先取りした内容になっていることを踏まえた上で、授業経営や OJT として活かした。また、管理職研修にあたる Head of School を受講した管理職は先進的な視点で学校経営に着手し、実践に移すことができた。

【学校主催事業】

・本校独自に、認定状況の説明、中学校・地域への啓発及び IB 教育への理解の推進のため、6月に香川大学アドミッションセンター教授 竹内 正興氏を招聘し、保護者向け研修会 (育友会共催研修会) を行った。7月には中学校への説明会及び中学生向け国際バカロレア教育体験授業の実施、認定を受けて11月には地域対象に IB 説明会、中学校教員対象説明会を行った。結果として、目標の2倍となる 63名の IB への関心をもつ入学者を迎えることができた。

・IB の手法を取り入れた模擬授業は日常的に公開を行った。とくに「公共」の時間では TOK の実践を行い、朝日新聞に掲載された。

4 総合所見 (成果・評価)

・山陰初のIBワールドスクールになったことは快挙である。このことは、県教育委員会の協力と本校職員の研鑽なしにはあり得ないことである。DP認定に当たっては、特に生徒のインタビューの評価が高く、本校生徒の適応力や学びに向かう意欲の高さがあらためて本校の財産であることが認識できた。同時に、IBワールドスクールとしての果たすべき役割は多い。県内への広報は、高等学校課はもとより市町村教育委員会及び小中学校課とも連携を取りながら進めていくことが必要である。また、県外募集に関しては同窓会や倉吉市（空き家利用等）との連携も模索していく必要がある。そして何よりも、学校の魅力化として授業改革を通して、「主体的学習者の育成」と「21世紀をリードする人材の育成」の具現化をさらに推進することは必須である。来年度は全職員がコア科目への理解を深めるために、教職員研修としてインスクールワークショップを学校開催するなどし、教職員の更なる資質向上のための企画を計画していく。

※枚数任意